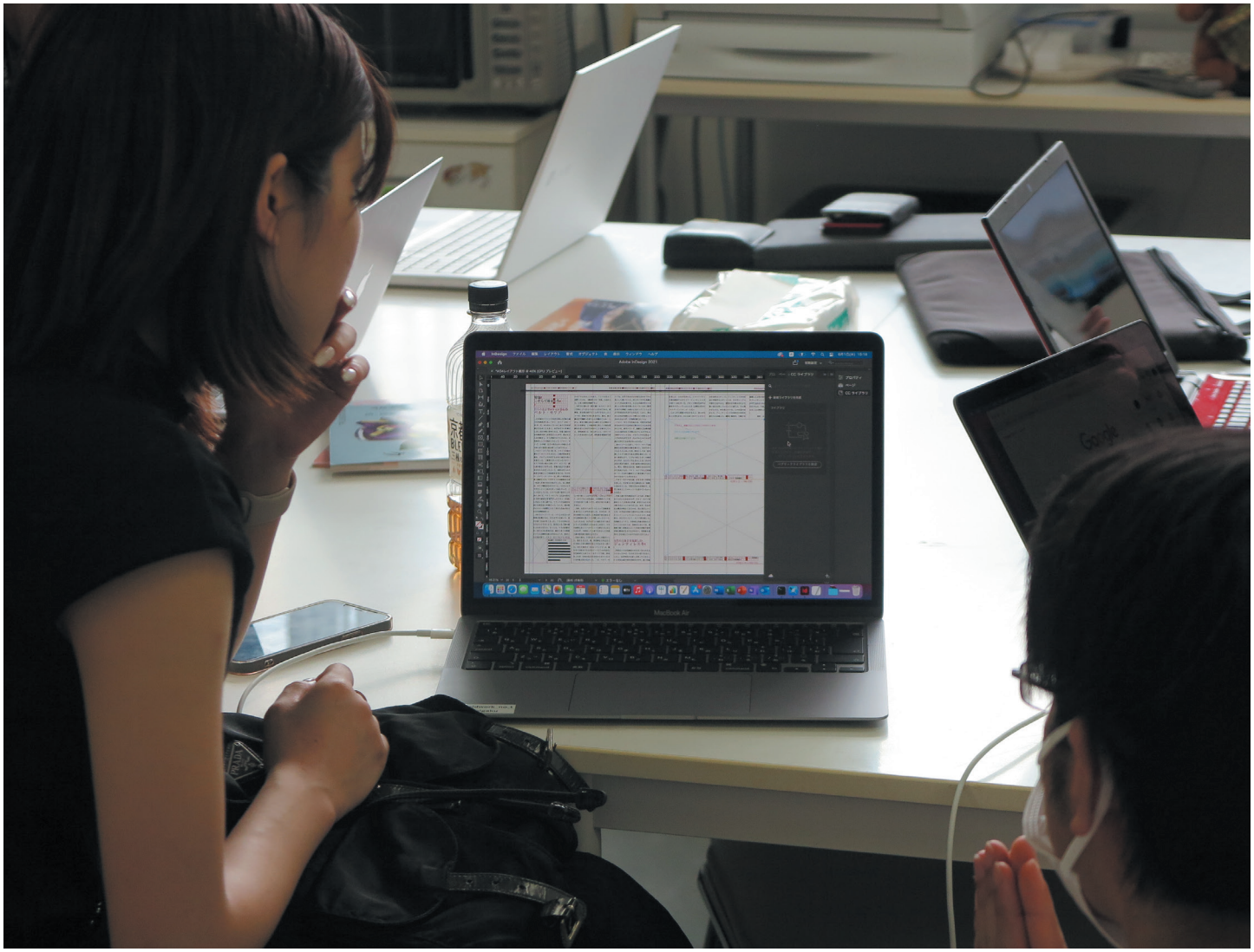
芸術を伝えるひとになる

多摩美術大学

芸術学科

Tama Art University

Department of Art Studies



Message 「芸術学」へのいざない

芸術学科に興味を持っていただき、まことにありがとうございます。絵画や彫刻などのファインアートとデザインの分野で制作の実技を学ぶことを主眼とした多摩美術大学の中で、美術史、デザイン史や批評などを授業の中心に据えた本学科はやや特殊な立ち位置にあります。

思えば、人類は洞窟に住んでいた時代から、壁画や装身具などの工芸品とともに生活していました。芸術は生活に密着した存在だったともいえましょう。一方、どんな分野にも能力の傑出した人々がいるものです。芸術の分野では常人にはない発想で余人の追随を許さない独創的な表現をする才人たちが現れました。その表現や作品の素晴らしさについては、あえてここで言う必要もないでしょう。ただしその代償としてあまりに非実用的なものを作ったり、積極的に解説を聞かないと楽しむのが難しかったりという事例が出てくるようにもなりました。特に現代はその傾向が加速しています。

ここで、「ことば」の出番が登場します。アートやデザインは五感に訴えかける表現で成り立っていますが、人間はただ目や耳でそれらを捉えるだけではなく、脳を存分に稼働させて考えながら受け止めます。そこにことばが大きく関わってくるのです。ことばは思考の礎です。そして、感じたことをことばで捉え直すからこそ、芸術のより深い次元での享受が可能になるのです。さらにことばは、享受した喜びを人に伝える力を持っています。ここに、本学科が考える「芸術学」の意義があります。

本学科はことばによってアートやデザインをより深く捉え、さらには多くの人々に伝えることで、社会と喜びを共有することを目指しています。本学科からはこれまでに多くのキュレーター、批評家、編集者、装幀家が巣立ち、一人一人の力はささやかながらも、芸術を社会の中に送り出す役割を累々と積み重ねてきました。こうしたことに興味を持った皆さんは、ぜひ本学科の門戸を叩いてみてください。

広く、深く、アートと向き合う

芸術学科の 3つの柱

つくる
Create

基礎となる美術のさまざまな表現を実技を通して経験し、それらの背景を思索し、理論を得るための眼差しを育みます。

考える
Think

「つくる」で経験した表現が、美術・芸術のなかでどのように読まれ、考えられているかを探り、自らの考えを深化させます。

伝える
Inform

「つくる」「考える」で培った技術や理論を生かし、展覧会のキュレーションや多様なメディアのプロデュースを実践し、社会との関わりを持ち、さらに研究を進め、卒業論文等につなげます。

芸術学科で活用している設備と環境

スタジオ

日本画、油画、版画、彫刻などの実習制作をするための部屋です。

パソコン・ルーム

芸術学科の学生専用のパソコン・ルームです。各パソコンには、エディトリアル・デザインをするためのソフトウェアやたくさんのフォント（書体）がインストールされています。

ラウンジ

授業のない時間に休憩や勉強、学生同士の交流ができるよう、芸術学棟の中心の吹き抜け空間をラウンジとして開放しています。上の階には螺旋階段でのぼります。

図書館

芸術学棟の近くには、世界的建築家の伊東豊雄氏が設計した美しい図書館が建っています。配架した書棚や外光を和らげるカーテンなどにも工夫が凝らされており、心地よい環境の中で調べ物や読書ができます。

芸術学を網羅する教授陣の素顔

安藤 礼二 教授

書物設計担当

批評家。折口信夫研究を中心に、南方熊楠と柳田國男の民俗学、鈴木大拙と西田幾多郎の宗教哲学が交わる地点に批評活動を展開。批評とは、古きものの解釈であると同時に新しきものの創造でもあると考えている。

越後谷 卓司 教授

映像文化設計担当

映像研究者。愛知芸術文化センターで愛知県文化情報センター、愛知県美術館の学芸員として、「アートフィルム・フェスティバル」等上映会の企画や、「オリジナル映像作品」のプロデュースを担当。実験映画、ビデオアートを軸に、映像による表現の特質とは何かを探求している。

小川 敦生 教授

フィールドワーク設計担当

美術ジャーナリスト。日経新聞とその系列の出版社で美術記者、音楽記者、雑誌編集長等を歴任。今も、授業のない日は足を使った取材と執筆に勤しむ。ゼミでは学生たちと一緒にアート誌を制作している。

家村 珠代 教授

展覧会設計担当

キュレーター。目黒区美術館などで戦後の日本の美術、特に同時代の美術家・作品の研究と展覧会の制作に取り組んできた。授業では作品と展示空間、建築との関係を念頭に、展覧会という枠組みの可能性を探っている。

大島 徹也 教授

美術史設計担当

美術史家。多摩美術大学美術館館長。愛知県美術館主任学芸員、広島大学大学院准教授を経て現職。学芸員時代にはポロックやニューマンの展覧会を企画／監修。授業では西洋近現代美術史を中心に、美術批評や芸術文化論、博物館学も展開。

金沢 百枝 教授

造形史設計担当

美術史家。ヨーロッパ中世の、とくにロマネスク聖堂をめぐり、怪物／動物図像など、キリスト教の流れでは解釈できない美術について研究。授業では、キリスト教図像学、先史時代から近世までの造形論、中世の技法を扱う。

教育課程

1年次	2年次	3年次	4年次
講義と実技を通して、美術・芸術の基礎や歴史を学ぶ。	基礎を固めながら、自らの興味を見出し、深く考える。	専門性の高いゼミに所属し、社会・世界とつながる学びを実践する。	自分が強く関心を持ったテーマで、卒業研究に取り組む。
【基礎講座】 芸術と鑑賞　21世紀文化論Ⅰ·Ⅱ ファインアート基礎　デザイン基礎　芸術学英語1～7 映像理論Ⅰ　音楽と美術 キュレイトリアル論 近·現代美術史　民俗芸術論 ヨーロッパ芸術論Ⅰ	21世紀文化論Ⅰ·Ⅱ	**【設計Ⅰ·Ⅱ(Ⅲ·Ⅳ)】** 美術史設計 造形史設計 展覧会設計 フィールドワーク設計 書物設計 映像文化設計 哲学設計	美術史設計 造形史設計 展覧会設計 フィールドワーク設計 書物設計 映像文化設計 哲学設計
【専門講座】 アートプロデュース論 芸術人類学 研究と展示 言語メディアⅠ·Ⅱ 詩学 縄文図像学 素材論 パフォーミングアーツ史 美学特論 文化財学R	アジア思想史　映画の現在 映像と身体　映像表現 映像文化史研究　映像理論Ⅱ 音楽のアーカイヴ　鑑賞論 芸術と経済　言語思想史 現代美術論Ⅰ·Ⅱ 現代表現研究　現代表現論 写真表現　身体文化論 デザインR　デザイン文明史 デッサンR デザインジャーナリズム論Ⅰ·Ⅱ 展覧会の構成論　都市論 日本近代美術史 日本戦後美術史 美術普及概論　文化人類学R ヨーロッパ芸術論Ⅱ	アメリカ現代美術史 音と映像の人類学 自然と言語 フランス近代美術史	卒業研究
【学芸員課程科目】 生涯学習概論R　美術館概論 美術館教育論　美術館経営論 美術館情報·メディア論 美術館資料論 美術館資料保存論 美術館展示論	博物館実習RⅠ	博物館実習RⅡ	

※例年の開講科目をもとに記載しており、変更の可能性があります。

専門授業の紹介

21世紀文化論	美術家、建築家、小説家、評論家、キュレーターなどの外部講師を招いた特別授業。建築家の西沢立衛氏、アートディレクターの北川フラム氏など多彩な顔ぶれによる講義を実現してきました。
キュレイトリアル論	展覧会を通して現代アートをどう伝えるのか、作家との対話から展覧会をどう構成するのか。現役キュレーターである教員が、開催中の展覧会や展示空間を主な題材に講義します。
芸術学英語	芸術を英語で学び、英語を芸術で学ぶ。 美術大学ならではの授業です。
音楽と美術	音楽は美術に変化しうるのか。絵画から音楽が生まれることはあるのか。世界の作家の作品を見ながら観察し、明日からの創造につなぐ授業です。
芸術人類学	ひとにとって「つくる」という所作はどういう意味をもつのか、アートとはなにか、その境界領域についてともに考える授業です。

特色あるゼミ

芸術学科では、3、4年次にいずれかの設計科目（ゼミ）に所属し、研究·調査や資料整理などの作業から予算管理に至るまで、展覧会のキュレーターや出版物の編集者、プランナーとして行う仕事全般を実際に体験します。実践的な学びを通じて、社会や世界とのつながりを感じながら、積極的に活動します。

※複数のゼミを履修することも可能です。

- 書物設計
- 展覧会設計
- 映像文化設計
- 美術史設計
- フィールドワーク設計
- 造形史設計
- 哲学設計
- アーカイヴ設計

※「アーカイヴ設計」は、2025年度不開講です。

芸術学科4つの入口

2026年度入試の詳細については、学生募集要項をご確認ください。

学校推薦型選抜

募集人員
5名

現代の芸術・文化をプロモート（企画・制作）しようとする熱意と使命感をもった人を求め、学力中心の一般選抜では評価しきれない「芸術・文化」の「企画」に関わる人に必要な資質と能力を見ます。

提出課題

願書と同時に提出

課題では、芸術・文化の企画者として必要な能力を評価します。
課題：芸術について「空想の○○○」の企画者として自由にプランを企画してください。

小論文・面接

「小論文」では文章表現力や思考力を、「面接」では芸術に対する考え方や将来の目的意識などを評価します。

一般選抜

一般方式

募集人員
11名

学科試験として「国語・英語」、専門試験として「小論文または鉛筆デッサン」を課しています。基礎学力と芸術性を評価します。

学科試験

国語・英語
各100点
計200点

芸術学科専門試験
300点

出願時に［小論文（90分）］［鉛筆デッサン（3時間、言葉によるデッサンを含む）］から1科目を選択。

共通テスト Ⅰ方式

募集人員
8名

大学入学共通テストの本学指定の教科・科目と専門試験を課します。

大学入学共通テスト

7教科17科目のうち
2教科2科目選択

各科目100点
計200点

芸術学科専門試験
300点

出願時に［小論文（90分）］［鉛筆デッサン（3時間、言葉によるデッサンを含む）］から1科目を選択。

共通テスト Ⅱ方式

募集人員
16名

大学入学共通テストの本学指定の教科・科目で合否を判定します。本学での専門試験は課しません。

大学入学共通テスト

「国語」、「英語」、
5教科15科目のうち
1教科1科目選択

国語200点、
英語200点、
選択科目100点
計500点

※上記とは別に、外国人留学生選抜、帰国生選抜、3年次編入学選抜を実施しています。
詳しくは、学生募集要項をご確認ください。

2026年度入試日程
- 学校推薦型選抜 ／ 2025年11月22日（土）
- 一般選抜／芸術学科専門試験：2026年2月10日（火） 学科試験：2026年2月10日（火）

卒業後の進路

＼ 先輩たちはこんな仕事をしています！ ／

美術教員
教育者

美術家

学芸員

アート
プロデューサー

美術史家

ギャラリー
スタッフ

デザイナー

ジャーナリスト

編集者

研究者

本学科出身者の就職先の例

［美術館の学芸員やギャラリーのキュレーター］ アートフロントギャラリー／市原湖畔美術館、愛知県美術館、足利市美術館、宇都宮美術館、NTTインターコミュニケーション・センター［ICC］、大分県立美術館（OPAM）、岐阜県美術館、京都市京セラ美術館、国立国際美術館、川崎市市民ミュージアム、神奈川県立近代美術館、サントリー美術館、静岡市美術館、世田谷美術館、世田谷文学館、せんだいメディアテーク、千葉県立美術館、DIC川村記念美術館、東京都写真美術館、東京国立近代美術館、東京都現代美術館、東京都美術館、富山県美術館、広島現代美術館、山口情報芸術センター、横浜美術館

［美術教員 / 教育者］ 足立区立蒲原中学校、世田谷区立用賀小学校、長野県佐久市立臼田中学校、豊川市立西部中学校、宇都宮大学、沖縄県立芸術大学、多摩美術大学、東京藝術大学、東北芸術工科大学、明治大学

［その他］ アマナホールディングス、イケア・ジャパン、上毛新聞社、大空出版、クリナップ、コム・デ・ギャルソン、劇団青年座研究所、木下大サーカス、警視庁、資生堂、集英社、三越伊勢丹、三井住友銀行、産経新聞社、翔泳社、森話社、水上印刷、松屋、凸版印刷、TBS、テレビ神奈川、電通、東急文化村、東北新社、日本銀行、博報堂、福武財団、ポケモンセンター、ポプラ社、美術出版社、ビームス、BankART 1929 、NHKアート、NTT出版、ユニクロ、横浜銀行、ワイズ

芸術学科で取得できる2つの資格

芸術学科では、学部在学中に学芸員資格と教員免許状（美術）の両方を取得することが可能です。

学芸員資格

卒業単位のなかで取得できます。

美術教員免許

中学校・高等学校の教諭1種免許状（美術）を取得できます。